

編集室

* 本年5月に通信ソサイエティ分野の編集特別幹事を拝命致しましたNTT研究所の笹山と申します。関係各位には御報告が遅れて大変申し訳ありませんが、この場を借りてごあいさつ申し上げます。本会の編集関係の仕事は論文誌を含めて全くの初めてであり、いきなりの幹事の大役は「役者不足」のそしりを免れませんが、経験豊かな編集委員の皆様の方をお借りして微力ながら貢献したいと思っております。

* NTT研究所に入社以来20年を超え、本会には大変お世話になってきております。特に入社当時は未熟ながら全国大会や研究会に毎回参加させて頂いて、貴重な意見を賜って研究者として成長させて頂いたと感謝しております。遅ればせながらではありますが、今回の編集の仕事を恩返しのお機とさせて頂きたいと思っております。

* 就任してから編集連絡会や会誌編集委員会等へ出席して本会誌の編集作業を一通り経験し、第一印象として、この会誌編集という仕事の特徴を考えてみました。

* 学会誌に掲載されている記事は、特集や解説、講座など種々ありますが、いずれの記事も充実した読みごたえのある内容を読者の皆様に御提供するために、企画準備段階から半年～1年くらいの期間をかけてじっくりと着実に議論を重ねて掲載に至るということを編集に携わるようになって初めて知りました。特に特集・小特集に至っては、1年以上も前から企画を練り始めて、会誌の華として素晴らしい内容となっています。幅広い分野から参画頂いている編集委員の衆知を集めて、企画着想の段階からの地道な努力の積み重ねが、充実した記事という花を咲かせています。

* 更に、その種々の記事を10数件掲載した毎月号を、年間12回、50年余の長きにわたり発行を継続させてきたことが、会誌自体の格段の進化につながっていると思っております。入社当時の会誌から比べると、読みやすさの向上、カラー誌

面の充実、バラエティに富んだ内容は、素晴らしい！の一言です。日本語でこれだけのバリエーションに富んだ読みごたえのある学術雑誌は希少だと思っています。こう実感するのも、正直に打ち明けると、ここ近年は会誌を未開封のまま「積ん読」状態になっていたのを、編集に取り組むことになってから久しぶりに熟読したからというのかもしれませんが…。毎月毎月の進歩は目に見えないくらいわずかなものかもしれませんが、長い間続けてきたことの進化は大きいと思います。まさに俗に言う「継続は力なり」を具現化したものだと思います。

* これらの特徴を、私事で恐縮ですが趣味のランニング(ジョギング)のアナロジーに置き換えてみました。

* 長距離レースにエントリーして完走を目指すために、毎週末の練習は暑かろうが寒かろうが休まず続けていくという地道な練習(準備)を重ね、制限時間内完走という花を咲かせています。そのレース完走という小さな積み重ねを長い間繰り返して続けていくことで、ランニングの質が向上しました。すなわち、30代を運動不足の日々で過ごして太った腹周りや病弱な体に嫌気がさし、ランニングを始めて10年近くたちますが、最初は練習で1kmも走りきれなかった体が、今やフルマラソンを走りきれぬくらいまで成長したことは、継続の力だと認識しています。レースの距離延長や走破タイム短縮が年々と向上するにつれ、「継続は力なり」を実感しています。

* 私のつたない経験を、強引に会誌編集になぞらえてみましたが、このランニングで培った粘り強く続けられる力を生かして、会誌の素晴らしい伝統を守りつつ、誌面の充実とともに成長していきたいと思っております。読者の皆様の温かい御支援、ごべんたつをよろしくお願い致します。

(編集特別幹事 笹山浩二)